



子供たちを応援する
レクリエーション・ボランティアのススメ

“遊び”を通じて
見守り、寄り添い
趣味を活かして
豊かな経験を提供



RECREATION

はじめに

～本書をひもとく皆さまへ～

安心して、遊び、競い、試し、驚き、汗し、笑う。こんな豊かな時間を過ごせる子どもたちの居場所を創り、守り、育むことが、社会の大きな課題になっています。本書は、このような課題に、遊びを通じて貢献する、遊びのボランティア（レクリエーション・ボランティア）のための基礎知識を紹介しています。

●早めの仮デビューのススメ

第1章＋第2章では、子どもの居場所の様子や今の子どもを理解する視点を身につけていただけます。

子どもと安心して向かい合うことができる、笑顔を交わすことができる。そんな自信と少しの勇気を持って現場に出かけ、子ども達をそっと支えるボランティアとしての仮デビューを楽しむことをおすすめします。

●ふれあいのための遊び術をプラスして見守り・寄り添いボランティア・デビュー

第1章と第2章に、子ども達と自然に、そして速く、交流し、ふれあいを楽しむための遊びの活用方法（コツ）を学ぶ3章を付け加えると・・・。

早めに来場した子ども達と一緒に遊ぶ。ポツンとしてしまっている子どもと遊びを通して仲良しになる。一緒に遊びながら、お迎えを待つ子ども達の寂しい心を癒す。そんな見守りボランティアとしての皆さんの活躍を現場は待っています。

●趣味の活かし方をプラスしてメニュー提供ボランティア・デビュー

自分の趣味を、子ども達がさまざまな体験をする遊びメニューとして活かす。そんなメニュー提供ボランティアとしてのデビューに向けて、第1章と第2章に付け加えて、第4章でちょっと勉強。

今の子ども達にどんな体験が必要か、そのための遊びメニューをどう考えればよいのか、趣味

からどのように遊びメニューを作るのか。こうしたことを学んで、さっそく現場デビュー。

子ども時代は誰しも経験しています。

それなのに、子ども達の遊びを応援するために、なぜ改めて勉強するのでしょうか。

子ども達の秘めた思いや力に気づくアンテナを張るため。

子ども達の秘めた思いや力を引き出し、自分を信じられる気持ちを高めてもらうため。

そして、何よりも、そうした子ども達の笑顔から、あなた自身が、人生を彩る張り合い、喜びをもらうため。あなた自身のやりがいを大きく育むため。

本書をひもといて、現場の中で、子ども達との交流の中で、ご自身ならではの答えを深めていただければ幸いです。

も く じ

1 子どもの居場所 04

2 子どもを見守り、サインをキャッチ 08

3 遊び活用のポイント・コツ 18

4 体験メニューの考え方、創り方 24

1

創り、楽しみ、支える 子どもの居場所

1. 子どもの居場所を（意図的、計画的に）つくるのは

■子どもの居場所とは、次のような場（時間・空間）と考えられるでしょう。

- *子ども達が安心して過ごし、様々な体験を通して、大人への育ちに大切な何かを獲得していける場。
- *かつては、地域の大人に大きな目で遠くから見守れつつ、子ども達自身によって創り、伝えられていった場。

■子どもを取り巻く環境が年々厳しくなっています。改めて地域の中に子どもの居場所を創り出さなければならぬ社会に突入している、と言い換えることもできるでしょう。

- *子どもをねらった事件、子どもを巻き込む凶悪な事件の多発
- *遠くから見守る大人の目の激減
- *子ども自身の、居場所づくりのチカラ、それらのチカラ獲得の経験不足、欠如

2. 創り出す子どもの居場所とは

(1) 多様なスタイル

- それでは、どのような子どもの居場所をつくる必要があるのか？これが唯一の正しい答え、子どもの居場所はこうでないといけない、ということはありません。
- 例えば、子どもの居場所づくりを進める文部科学省の言い方を簡単にまとめると、次のようになります。
 - *学校の校庭や教室等を子どもの居場所（活動拠点）として開放
 - *放課後や週末などの一定時間、子ども達が、スポーツや文化活動などの様々な体験活動を実施
 - *地域の大人達が指導ボランティアとして協力
- 実際の現場では、次頁に例示できるように、様々な居場所のスタイルがあってよいのです。
 - *もちろん、下記の例は分析的な見方。いろいろなスタイルが、混在したり、組み合わせられたりするハイブリッドな居場所も少なくない。

プログラム提供型

単一プログラム提供型

ひとつの体験メニューを、子どもたち全員で楽しむ時間を中心に組み立てたプログラムを、毎回提供

複数プログラム提供型

同時に提供される複数の体験メニューを子どもたちが選んで楽しむ時間を中心に組み立てたプログラムを、毎回提供

大人の居場所型

大人が楽しんでいるスポーツや趣味の活動を子ども達が一緒になって楽しむ。大人の活動拠点を居場所として開放、子どもはそんな居場所に出向いて好みの活動を実施

自由な遊び場型

子どもたちが自主的に楽しみたいと思う遊びを展開。大人は遠くから見守ったり、一緒になって楽しむ。そんな遊びのフリースペース的な場を毎回運営

(2) 共通項は、その時のもっともよいスタイルを創り続けること

- 地域性や支える大人の願い、集まる子どものその気等は、100の子どもの居場所があれば、100通り。
- さらに言えば、ひとつの子どもの居場所でも、その時、その時の状況が異なります。
- これが完成と思わずに、自分たち流の、その時にもっともよいスタイルを、絶えず創り出していき、と考えればよいでしょう。

3. 子どもの居場所の展開イメージ

(1) レクリエーションの良さを生かした居場所のイメージ

- 私たちは、直接、子ども達を取り巻く様々な問題を解決することはできないかもしれませんが、“遊び”を通して、子どもたちが友だちや仲間と出会い、親子・家族の交流を深めたり、地域のためにちょっとしたいいことをしたり、さまざまな体験・経験を手わたせるはずです。
- そうしたなかで、子どもたちは人を思いやる気持ちや協調性を身につけ、コミュニケーションをとる力や主体性、体力を養い、家族や地域の人たちとの強いつながりを実感できるようになるでしょう。
- 今回は、次のような、遊び・レクリエーションの良さを活かして「何か」の獲得を支える居場所を共通のイメージとします。
 - * 人と人、人と地域、人と自然などの関係をつなぐ仲立ちになる（コミュニケーションの促進、コミュニケーションの良さや能力獲得の経験提供）
 - * 秘められたチカラを引き出すきっかけになる（秘められた意欲、潜在的な能力が引き出される体験を提供）

- *心身の解放の機会となる（没入できたり、自己表現できる機会、時間を提供）
- そのイメージは、次のような4つのキーワードで示すことができるでしょう。

- * **安全・安心**：子ども達が安心して集え、安全に遊ぶ時間を提供
- * **成長**：子ども達の成長につながる時間を提供
- * **体験**：子ども達に多様な遊びを通じた体験を提供
- * **仲間の輪**：子ども達を支える、地域の仲間（大人）の輪が広がっていく

（2）良さを活かす事業のカタチとボランティアの活躍

①「何か」の獲得を支える「起・承・転・結」の流れ（構造）

- その日の子どもの居場所の流れを、起・承・転・結の構造（次ページ参照）で考えます。
 - *プログラム提供型の子どもの居場所ならば、起・承・転・結が好例のカタチになることでしょう。
 - *自由な遊び場提供型でも、時に地域との交流や、折々のイベント的な展開をする局面では、起・承・転・結の構造が見られることでしょう。
- 起承転結の4つの段階にわけることで、前ページで紹介した4つのキーワードを楽しく実現できます。
- さらに、プログラムのどの部分に、どんな工夫が必要か、どんなメニューが適切か。4つのキーワードを実現するためのこんなポイントが見えてきて、ボランティア仲間の中で試行錯誤を楽しみ、共有できます。

②ボランティアとしての活躍

- 子どもの居場所が、大人（学生、若者含む）のボランティアによって支えられることは言うまでもありません。
- ボランティアとしての活躍は、次のように整理することができるでしょう。
 - *子ども達を見守り、一緒に寄り添い遊ぶボランティア（見守り・寄り添いボランティア）
 - *子ども達の体験メニューを提供するボランティア（メニュー提供ボランティア）
 - *1回～数回の子どもの居場所のプログラム全体の運営に取り組むボランティア（プログラム運営ボランティア）
- 注意していただきたいのは、（上記のボランティアの整理は）あくまで、整理のための分け方。例えば、見守りを中心とした寄り添いボランティアをしつつ、次のような活躍をすることもできます（例えば、子どもと直接的な接触はちょっと苦手だけどという方）
 - *仕事や家事等の経験を活かして、チラシ作成、会計管理、給水のサポートなど
- 見守り・寄り添いボランティア兼メニュー提供ボランティア兼プログラム運営ボランティアとして活躍する方もいるはずです。
- さらには、ボランティアとしてかかわりが深まる中で、居場所の運営全体を担う、中心的なボランティアとしての活躍を始める方もいるでしょう。



起の段階(一緒に楽しむ仲間を確認)

安心・安全

特徴

- 参加する子ども達を集めて、歌や歌あそび、ゲームを楽しむ。
- 一緒に楽しむ仲間の顔が見えてくる。一緒に楽しむスタッフへの親しみも湧いてくる。

効果

- 子ども達の緊張感、不安感がほぐれる。
- 「みんなと一緒に安心して楽しんでいいんだ」という気持ちになれる。
- 「この人達のリードで楽しい時間を過ごせるんだ」と、スタッフの言葉や注意に、自然に耳を傾けるようになる。

承の段階(楽しさを共有することでいろいろな経験)

成長

特徴

- スタッフのリードで、集団ゲーム等を楽しむ。
- スタッフに子ども達全員がチャレンジ、子ども達がペアを組んで課題の挑戦、さらに4人組、6人組になって対抗戦…と笑顔を交わし合う範囲(コミュニケーションの輪)が広がっていく。
- 低学年のちびっ子と、中高学年のお兄ちゃん、お姉ちゃんが対抗したり、協力しあう。

効果

- 気がついたら、おしゃべりをしたこともない友達と肩を組んでいた。
- それぞれの力を発揮しながら(主体性)、仲間と心を合わせてチャレンジ(協調性)していた。

転の段階(様々な遊びのメニューを満喫)

体験/仲間の輪

特徴

- モノづくりやスポーツ、伝承あそび、自然体験など、楽しさに満ちた様々なメニューの体験を楽しむ。

効果

- 子ども達が、普段の学校や塾、家庭では味わえない体験を楽しむ。
- 遊びのメニューを提供する大人が、子ども達の笑顔に「うれしくなる」。次の機会が「待ち遠しくて」準備にも熱中しはじめる。

結の段階(また会おうねと楽しかった時間を振り返る)

安心・安全

特徴

- 歌や歌遊び等を楽しむ。
- 楽しく過ごした時間を共に振り返る。

効果

- また会おうね、という気持ちや、あそびの城に安心して来られるんだ、という想いが共有されていく。

